

日本海で米B52訓練

核搭載型 小松基地の2機と

核兵器の搭載が可能な米空軍のB52戦略爆撃機が8月、日本列島上空を横断し、航空自衛隊のF15戦闘機と小松市沖などの日本海上空で共同訓練をしていたことが19日、政府関係者への取材で分かった。小松基地によると、F15は第6航空団所属の2機で同基地から発進した。日本海上空での空自戦闘機とB52との訓練が公になるのは初。日米が一体となり、朝鮮半島有事を念頭に訓練を繰り返している実態が明らかになった。

8月、日本列島横断 半島有事を念頭

政府関係者によると、日本政府は「非核三原則」を踏まえ、訓練前に核を搭載し、

日本海でF15と共同訓練を実施。編隊で飛行する手順の確認などをしたという。



空自戦闘機と米軍のB1

戦略爆撃機は九州周辺で頻りに共同訓練をしており、一部は公表されている。B1はかつて核を搭載したが、1990年代に米軍の核の運用計画から外されている。

B52と空自戦闘機との訓練は公表しておらず、政府関係者は「訓練全てを公表すればいい」といっている。

韓国・烏山上空を通過する米軍のB52戦略爆撃機(共同)

B52戦略爆撃機 大型で核兵器を含むさまざまな種類の爆弾を搭載できる米空軍の戦略爆撃機。給油なしで約1万4千キロを飛行できる。初型機が1954年に初めて飛行。ベトナム戦争や湾岸戦争、イラク戦争でも使用された。2040年代まで運用される見通しだ。

核兵器が搭載できるB52が接近したことが分かれば、北朝鮮は強いプレッシャーを受ける」と話している。

核弾頭を搭載できるB52は大型で長距離の飛行が可能。米軍は昨年1月、北朝鮮による4回目の核実験への対抗措置として、米領グアムからB52を発進させ、韓国軍戦闘機と在韓米軍烏山空軍基地付近を低空飛行した。

米軍は朝鮮半島周辺にたびたびB1をグアムから飛ばさせ、空自や韓国空軍とそれぞれ共同訓練を実施している。

2017.11.15 北 国

小松基地に戦闘機集結

自衛隊統合演習(実動演習)のため、航空自衛隊小松基地に全国から戦闘機が集まり、14日は駐機場に約40機が確認された。

飛来した戦闘機は、機体尾翼の部隊マークから千歳(北海道)三沢(青森)百里(茨城)築城(福岡)那覇(沖縄)の各空自基地のF2、F4、F15で、小松基地以外の約30機が参加しているとみられる。防衛省統合幕僚監部(統幕)は機体数を公表していない。

統幕によると、統合演習は陸海空の自衛隊が6、24日に全国各地や周辺海空域で実施し、領空侵犯への対応などを訓練する。空自のF15など4機は13日、日本海空域で米原子力空母ニミッツや艦載機3機との共同訓練をした。

演習で全国から30機



航空自衛隊小松基地に集まった戦闘機—14日午後3時50分、小松市